

NISSIN REPORT

第60期 株主通信

2007年4月1日から2008年3月31日まで



インスタントラーメン発明50周年

株主の皆様へ



代表取締役社長

長谷川 隆宏

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに第60期(2007年4月1日から2008年3月31日まで)株主通信をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

経営の基本方針

当社グループは、日清食品の創業者精神である「食足世平」「美健賢食」「食創為世」を礎として、創業50周年を機に、更なる50年に向けて、「EARTH FOOD CREATOR」を当社グループの理念とし、さまざまな「食」の可能性を追求し、夢のあるおいしさを創造していきます。更に人類を「食」の楽しみや喜びで満たすことを通じて、

社会や地球に貢献します。また、総合食品メーカーとして、各カテゴリー(常温食品、低温食品、菓子、飲料、外食等)の中で常にNo.1ブランドを創造・育成していき、No.1ブランドの集合体として形成されるブランディングコーポレーションを目指し、より一層、ゆるぎない経営基盤を築きながら、企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努めます。

中長期的な経営戦略

インスタントラーメン事業の拡充と市場の活性化
当社製品の主なターゲットである若者層の人口は、少子・高齢化によって減少しています。一方、消費者の嗜好は多様化しており、プロダクトフルラインナップ戦略を実現できている点は当社の強みであり、更に高付加価値製品や健康に重点を置いた製品を開発していきます。

また、販売戦略としては、流通との包括的協働によるオーダーメイドカテゴリー管理により消費者価値の変化に対応できる「カテゴリートップマネジメント」を推進し、新たな営業力を構築します。

「チキンラーメン」「明星チャルメラ」「カップヌードル」等の主力製品の基盤をより強固にし、今日まで培ってまいりました技術力を活かし、お客様にとって魅力を備えた価値ある製品の開発・改良に努め、新たな需要創造に取組むとともに安定的な成長路線の構築に努め、安定的かつ長期的なキャッシュフローの創出を図ります。

新たなコア事業育成のための取組み強化

菓子・乳酸菌飲料・外食事業等、食と健康をキーワードに食の楽しさを演出する製品戦略を構築し、全てのバリューチェーンでの連携を強化し、競争力を強化するとともに、お客様の期待に応える新たな

価値を創造していきます。グループ内で製品開発や製造、営業面での連携を強化し、画期的な製品開発や先進的な営業活動を実現し、競争優位な事業体制づくりを行います。

また、新たに健康食品を重点領域と位置付け、事業基盤の強化を図ります。

海外事業の拡大

海外におきましては、日本で生まれ、世界食となったインスタントラーメンのバイオニア企業として、すべての国と地域の人々においしさと喜びを提供していく世界戦略を推し進め、常に事業構造、製品構成、人員配置等あらゆる面で見直しを図り、国内だけでなく世界有数の総合食品メーカーになるためにより強い事業体へ進化させていきたいと考えます。一方、より高品質の原材料をより安く購入するため、当社の海外ネットワークを活かして国際的な資材調達を進めてまいります。世界最大のインスタントラーメン消費国として成長を続ける中国においては、“ものづくり”を基本としたノウハウを強みとして、日清ブランドとローカルブランド双方の成長による事業基盤の強化と収益性の向上を図ります。

コスト競争力の強化

お客様にご満足いただける製品を、より低コストで作りだせることが企業競争力には不可欠な要素と考え、開発・調達・生産・販売に亘る全ての部門におけるシステム・機能の見直しを包括的に実施し、一層の合理化・効率化に取組み、利益重視の経営の浸透に注力します。

会社の対処すべき課題

安全・安心への取組み強化

当社は、食品メーカーとして法令遵守を徹底し、お客様に安全・安心な食品を提供していくことを使命と考えています。品質管理体制としては、食品の安全性について厳しくチェックする専門組織として「食品安全研究所」を設けています。更に上海に設立した「日清(上海)食品安全研究開発有限公司」もその一つであり、中国から調達されるすべての原材料の安全性チェックを短時間に行っています。

CODEX規格(国際食品規格)が定められ、名実ともに世界食となったインスタントラーメンのバイオニア企業である当社は、今まで以上に「安全・安心のおいしさ」「信頼のおいしさ」を追求する「食の安全・安心の戦略化」がこれからの食品事業の展開におけるキーワードになると考えます。更に、国内の自社工場及び食品安全研究所で品質マネジメントの国際規格ISO9001を取得し、海外の工場でもISO9001をベースとした品質管理体制を整えています。

環境への取組み

環境問題につきましては、環境の保全と資源の節約に配慮した企業活動に取組み、自然環境との共生を図ります。これまでに、国内外の事業所において環境マネジメントの国際規格ISO14001を取得したのを始め、国内における環境保全コストを定量的に把握するために、環境会計を導入し公表しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月

「チキンラーメン」発売50周年

「チキンラーメン」は、日清食品の創業者 安藤百福が発明した世界初のインスタントラーメンです。大阪府池田市の自宅裏庭に作った小屋で、ありふれた道具を使って研究を重ね発明した「チキンラーメン」は、「魔法のラーメン」と呼ばれ、多くのファンに支持されるロングセラー製品となり、今年2008年8月25日には発売50周年を迎えます。

日本で発明されたインスタントラーメンの一粒の種は、新しい食文化を創り上げ、2007年には世界で年間979億食(世界ラーメン協会調べ)も食べられる「世界食」へと成長するに至りました。

インスタントラーメンの歴史



1958年

世界初のインスタントラーメン
「チキンラーメン」発売



1960年代

「日清焼そば」発売(1963年)
「出前一丁」発売(1968年)



1970年代

世界初のカップめん
「カップヌードル」発売(1971年)
「日清焼そばU.F.O.」発売(1976年)
「日清のどん兵衛きつね」発売(1976年)



1980年代

「カップヌードルシーフードヌードル」
発売(1984年)
チルド「日清のラーメン屋さん」
発売(1987年)



1990年代

「日清ラ王」発売(1992年)
「サイリウムシリーズ」
厚生省(現 厚生労働省)から
特定保健用食品の認可取得(1997年)



2000年代

「日清具多」発売(2002年)
世界初の宇宙食ラーメン
「スペース・ラム」がスペースシャトルに
搭載され宇宙へ(2005年)

「チキンラーメン」50周年記念製品

「チキンラーメン」が“Wたまごポケット”付きにリニューアル

発売50周年を記念して、「チキンラーメン」は従来のたまごポケットを進化させ、「黄身ポケット」と「白身ポケット」の2段ポケットになった“Wたまごポケット”付き「チキンラーメン」にリニューアルしました。

従来のたまごポケットは、めんに付けた窪みがなだらかなため、どんぶりに入れためんが傾いていた場合、たまごがすべり落ちやすい傾向にありましたが、今回この“Wたまごポケット”にすることで、黄身が中央の「黄身ポケット」に、白身はその周りの「白身ポケット」に収まるようになり、たまごがずれたり、落ちたりせず、見た目もきれいに美味しくできあがるようになりました。

また、今回のリニューアルでは、ユニバーサルデザインをパッケージに採用し、消費者にやさしい表示となりました。原材料や栄養成分等の文字を大きくすることでより見やすくなるとともに、原材料に含まれるアレルギー物質を一覧表にすることで、一目で分かるようになっています。



「チキンラーメン」世界発売へ

「チキンラーメン」50周年を機に「世界のチキンラーメン」をテーマに当社の現地法人のある世界6カ国(アメリカ・ブラジル・ハンガリー・中国・インドネシア・インド)で各国オリジナルの「チキンラーメン」を2008年3月から発売しました。

各国の製品は、各現地法人で生産・販売されるもので、アメリカ版は電子レンジ調理型で、めんにおニ

オンパウダーを練り込んだタイプ、インド版はスパイシーな焼そばタイプに仕上げる等、国ごとの嗜好に合わせた味付けになっています。

「チキンラーメン」のおいしさ、簡便さを改めて世界の消費者にアピールし、更にグローバルに愛される製品を目指してまいります。



アメリカ ブラジル ハンガリー 香港 広東 インドネシア インド

トピックス

～ 発売37年目の大革新～

「カップヌードル」、新開発紙製容器「ECOカップ」へ

「カップヌードル」は1971年に世界初のカップめんとして発売されて以来、変わらぬおいしさを皆様に愛され、37年間カップめんのトップブランドとして支持され続けてきました。当社では、一昨年から「おいしい、の その先へ。」というスローガンを掲げ、おいしさを支える“品質”や製品の“安全・安心”、更にその先にある“環境”や“未来”を追い求めてきました。そして、当社が創業50周年を迎えた本年、「カップヌードル」は「変わろう。」をテーマに、よりたくさんの皆様に愛され続けるために変わります。

「地球のために(For Ecology)」「みんなのた

めに(For Customer)」「おいしさのために(For Originality)」の3つの要素を大切に考え、我々にとってかけがえの無い地球、食べていただく皆様、そして口にしたときのおいしさ、各々のことを思い配慮した新しいカップを、頭文字のE・C・Oを取って【ECOカップ】と呼びます。

このカップヌードルオリジナルカップ「ECOカップ」は、従来のカップを持った時の、ぬくもりのある手触りに近づけるため、ソフトな触感にこだわり、カップが変わっても、「カップヌードル」が持つ外観、食感、触感を守っています。



「地球のために」

石油のような限りある資源をできるだけ削減し、循環型資源である紙を容器素材に使用。また、製造時の二酸化炭素排出量を22%削減しています。

「みんなのために」

アレルギー物質の一覧表や食塩相当量等も明示。印刷に優れた紙カップだからこそ、よりくっきりとした見やすい文字表示となっています。

「おいしさのために」

密封性を高めることで、湿気から中身を守り、めん・スープ・具材の風味劣化を抑え、「カップヌードル」のおいしさと鮮度をより一層キープしています。

～ スペースシャトルに搭載～

世界初の宇宙食「うどん」「そば」「焼き鳥」「いなり寿司」等

当社が宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共同で開発を進めてきた新開発の宇宙食が、土井隆雄宇宙飛行士の宇宙食として、今年3月11日に地球を出発した、米国航空宇宙局(NASA)スペースシャトル「エンデバー号」に搭載されました。

今回積み込まれたのは、初めて宇宙食に採用された新開発の「うどん」「そば」「焼き鳥」「いなり寿司」「生姜いなり寿司」「お好み焼き」のほか、過去にもシャトルに搭載されたことのある「ラーメン」(しょうゆ・カレー・シーフード)の合計9品目で、これ

まで培ったインスタントラーメンの技術が随所に活かされています。

当社は、創業者 安藤百福の強い思いにより、宇宙食ラーメンの開発を行い、2005年7月には、世界初の宇宙食ラーメン「スペース・ラム」が野口聡一宇宙飛行士の宇宙食として、スペースシャトル「ディスカバリー号」に搭載されています。

当社では、今後も宇宙食開発のノウハウを活かして、さまざまな食機に対応できる簡便性の高い加工食品への応用開発に取り組んでまいります。



トピックス

～年間1,000億食へ「地球食宣言」～

第6回 世界ラーメンサミット 大阪開催

今年4月8日、9日の両日、世界ラーメン協会(WINA)が主催する「第6回 世界ラーメンサミット 大阪」が開催されました。インスタントラーメン発明50周年に当たる今回は、インスタントラーメン発祥の地、大阪での開催で、当社がホストカンパニーを務めました。

WINAは当社創業者 安藤百福が提唱し、世界の多くのメーカーが賛同して、1997年に発足。以来、インスタントラーメンの品質の改善や世界の食生活への貢献を目的に活動を続けています。

今回のサミットには世界10カ国・地域を代表するトップメーカー10社始め、世界21カ国・地域から計60社2団体が参加。「50年後の未来にインスタントラーメンはどうあるべきか」をテーマに、被災者支援や食の安全性確保等、インスタントラーメンの発

展と世界貢献のあり方が討議されました。

2007年の世界総需要が979億食となったインスタントラーメンについて、「年間1,000億食へ「地球食宣言」」とした大阪宣言の表明が行われました。

また、インスタントラーメンの更なる価値向上と平和産業として地球上すべての人々に貢献すべく、安藤百福の寄付を基にした「WINA災害食料救援基金」や、当社からの寄付による「WINA食品安全研究基金」も設立されたほか、穀物資源の利用において、食はエネルギーより優先されるべきことも確認されました。

2日目のフォーラムには、小泉純一郎元内閣総理大臣、橋下徹大阪府知事、平松邦夫大阪市長等多数の来賓も出席され、大きな話題を集めました。

World Instant Noodles Association の略称



左より、橋下徹大阪府知事、当社代表取締役社長 安藤宏基、小泉純一郎元内閣総理大臣、平松邦夫大阪市長

WINA 李 前議長(韓国)より、新議長の安藤宏基へ WINA旗が手渡されました

～日清食品をもっと知っていただくために～

第4回「株主懇親会」大阪にて開催

株主の皆様へ、当社及び当社グループ会社についてご理解を深めていただくため、国内外の製品をご試食いただき、また、当社経営者に直接ご意見を賜る機会として、今年2月20日にホテルニューオータニ大阪で第4回「株主懇親会」を開催いたしました。昨年11月30日にホテルニューオータニ東京で開催いたしました第3回「株主懇親会」とあわせ、約3,500名の株主様・ご同伴者様にご出席を賜り、心よりお礼を申し上げます。

「株主懇親会」には、当社から代表取締役社長 安藤宏基を始め、役員・執行役員並びに主要グループ会社の社長が出席し、株主の皆様から貴重なご意見を多数頂戴することができました。

試食会場では、「チキンラーメン」や「カップヌードル」等のロングセラー製品を始め、新発売の電子レンジ専用製品等をご試食いただきました。また、当社グループ会社の試食コーナーも設け、2007年度より新たにグループ会社に加わった明星食品

の製品や日清シスコの菓子製品、日清ヨークの乳酸菌飲料、タイ・香港の海外製品もあわせてご賞味いただきました。

会場では、創業者 故 安藤百福の写真パネルや現在発売している約300種類の製品を展示し、株主の皆様にご覧いただきました。試食終了後には、当社のキャラクターグッズや製品等が当たる抽選会を実施し、当日のスペシャルゲスト「宮川大助・花子」さんより賞品が贈呈されました。

株主の皆様へ、より一層当社及び当社グループ会社へのご理解を深めていただくために、これからも定期的に「株主懇親会」を開催していく予定ですので、今後とも是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。



試食コーナー

株主懇親会会場

製品のご案内

日清食品(カップめん)

カップヌードルミルクカレー

発売地区：全国

「カップヌードルカレー+
ホットミルク」=“噂”のあの味を
日清食品が本気でつくと
こんなにおいしい!



ヒット製品「ミルクシーフードヌードル」を超えるポテンシャルを持った「カップヌードルミルクカレー」が満を持して登場。

「カップヌードルカレー」のスープをベースに、ミルクの「まろやかさ」「コク」が加わったミルクカレースープが特徴です。

「ミルクシーフードヌードル」が製品化される以前、インターネットでの検索ヒット数で、“牛乳 シーフードヌードル”が約29,000件に対し、“牛乳 カレーヌードル”が約110,000件と圧倒していました。「カップヌードルミルクカレー」は“裏レシビ”として高い支持を得ていた伝説のメニューです。

「カップヌードルミルクカレー」特設ページ

「カップヌードルミルクカレー」の特設ウェブページ「CupNoodle Times」を「cupnoodle.jp」内にオープンしております。連続Webドラマ「カレーの恋はマイルド?スパイシー?」等魅力溢れるコンテンツで製品のサポートを行っています。

http://www.cupnoodle.jp/milk_curry/index.html



行列のできる店のラーメン 鹿児島

行列のできる店のラーメン 仙台

発売地区：全国

全国のおいしいご当地
ラーメンをカップめん[®]で再現!

「鹿児島」は、豚骨と鶏ガラのみが効いた濃厚さに、ローストネギの風味が味の深みを広げる「旨ト口鶏とんこつスープ」仕立て。

「仙台」は、味噌・野菜・鶏・豚・イリコの旨みが一体となった濃厚

さに、唐辛子の辛味でキレがよい

「辛みそ旨トロスープ」仕立て。

地元の魅力を再現したスープは、最後までおいしく食べられる、くせになる濃厚な味わいです。



明星食品(袋めん)

明星 チャルメラCa⁺

まろやか豆乳仕立て しょうゆ 5食パック

発売地区：全国

体にうれしいカルシウムを
プラスしたラーメン

1食当たり牛乳約2.5本分のカルシウムを練り込んだめんと、チキンの旨みに豆乳を加え、まろやかに仕上げたしょうゆスープのラーメン。すりゴマとペッパーを

合わせた別添スパイスふりかけ付です。

現代人に不足しがちな栄養素であるカルシウムとヘルシーな豆乳・ゴマを組合せたまろやかな

味で、また食べたくなる、味わいスープの「チャルメラ」に新しい味が加わりました。



製品のご案内

日清食品(チルド製品)

つけ麺の達人 濃厚魚介醤油(2人前)
つけ麺の達人 担々ごまだれ(2人前)
発売地区: 東北・関東・中部・近畿

家で食べる本格濃厚つけ麺

食べ応えのあるもちもちとした食感が特徴の極太麺に、つけだれは「魚介の風味豊かな濃厚醤油だれ」と「ピリ辛のごまだれ」の2種類があります。

ラーメン店で定番メニューとし

て人気になりつつある「つけ麺」をご家庭で食べていただこうと、3人の有名つけ麺店店主から監修を受け、細部までこだわった製品に仕上げました。



日清食品(冷凍製品)



冷凍 日清Spa王Japon 海老と貝柱の和風たらこ
冷凍 日清Spa王Japon エリンギと小松菜の和風きのこ
発売地区: 全国

あえて『和風』に特化した
スパゲティの新ブランド

“すだち果汁”が効いた上品な昆布だしに海鮮具材の「和風たらこ」と、こだわりの魚介だしに、きのこがたっぷり入った「和風きのこ」のスパゲティです。

洋風イメージが先行するパスタ

の世界ですが、今までにありそうでなかった純和風の世界を存分に楽しみたいだきたいとの想いから、和風パスタの新ブランドがこの度完成いたしました。新しい味わいを十分ご堪能下さい。

日清シスコ

大豆のグラノーラ
発売地区: 全国

大豆素材でおいしく仕上げたグラノーラ

煎り大豆・煎り黒大豆・豆乳・きなこ・豆腐を使い、基礎代謝を高めると言われている大豆ペプチドを1食(40g)当たり1,000mg配合した健康志向のグラノーラです。

大豆は、消費者の健康意識の向上に伴い、その栄養価が注目されています。

きなこをイメージした味わいに仕上げ、馴染みやすさとおいしさを追求いたしました。



日清ヨーク

ピルクル
発売地区: 沖縄を除く全国

おいしさと健康の
乳酸菌飲料をゴクゴク!

長時間の丹念な発酵から生まれる味わいと特定保健用食品の品質で、おなかを大切にあなたの乳製品乳酸菌飲料です。

発売当初から変わらぬ製法を頑なに守り、たくさんのお客様にご

愛飲いただいております。

ピルクルは今年2008年、発売15周年を迎えます。6月にはパッケージを一新し、30年、50年のブランドとしてこれからも育てていきます。

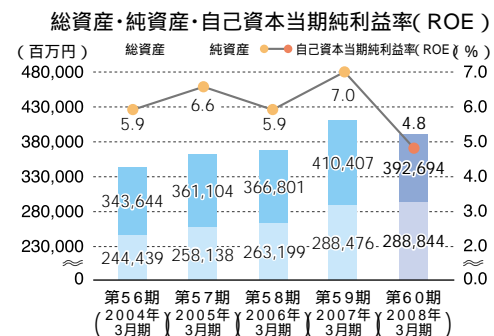
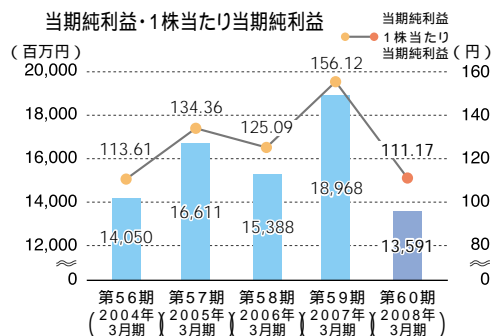
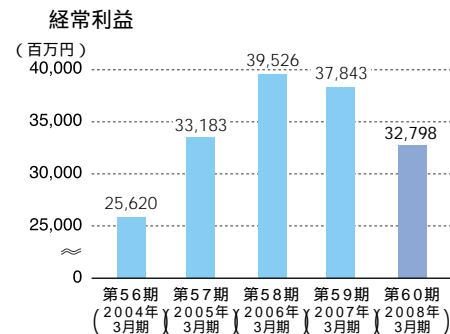
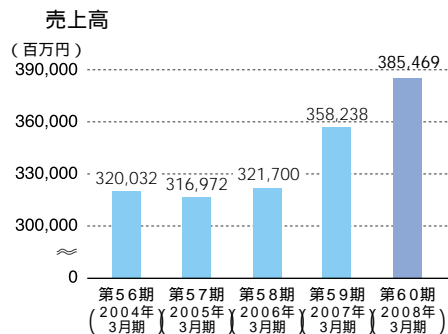


財務ハイライト(連結)

	第56期 (2004年3月期)	第57期 (2005年3月期)	第58期 (2006年3月期)	第59期 (2007年3月期)	第60期 (2008年3月期)
売上高(百万円)	320,032	316,972	321,700	358,238	385,469
経常利益(百万円)	25,620	33,183	39,526	37,843	32,798
当期純利益(百万円)	14,050	16,611	15,388	18,968	13,591
1株当たり当期純利益(円)	113.61	134.36	125.09	156.12	111.17
総資産(百万円)	343,644	361,104	366,801	410,407	392,694
純資産(百万円) ¹	244,439	258,138	263,199	288,476	288,844
自己資本当期純利益率(ROE) (%) ²	5.9	6.6	5.9	7.0	4.8

¹ 会社の施行に伴い、第59期より「株主資本」を「純資産」に名称変更し、「少数株主持分」を含んだ数字を掲載しております。

² 同様に「株主資本利益率」を「自己資本当期純利益率」に変更しております。



営業の概況

事業の経過及びその成果

当期の販売状況としましては、原材料価格の高騰による販売価格改定や、ブランド価値を重視した販売施策の実施等の影響もあり、第4四半期以降、若干調整的な局面となりましたが、今年発売50周年を迎えるロングセラーブランド「チキンラーメン」シリーズのほか「明星チャルメラコレクション」シリーズ等の袋めんや、当期に発売し消費者の強い支持を得た「カップヌードル」シリーズの「ミルクシーフードヌードル」、バリューカップの「スープヌードル」等のカップめんが売上を支える形で推移しました。

当連結会計年度の業績としましては、1年を通じて明星食品が連結対象となったことが寄与し、売上高は3,854億69百万円(前期比7.6%増)となりました。しかし、利益面では、退職給付に係る数理計算上のマイナス差異の減少や原材料価格の上昇等の影響もあり、営業利益は276億71百万円(前期比18.0%減)、経常利益は327億98百万円(前期比13.3%減)、当期純利益は135億91百万円(前期比28.3%減)となりました。

利益配分に関する基本方針及び配当

当社は、常にグループ収益力の強化に努め、企業価値の向上と株主の皆様に対する適切な利益還元を最重要経営課題と認識し、連結業績や今後の資金需要を勘案しながら、継続的かつ安定的な利益還元を行っていくことを基本方針としております。

上記方針に基づき、今後の株主配当金については、

連結配当性向30%を目安とした安定配当を継続できるような努めてまいります。

なお、当期の配当は、1株当たり25円の間配当と期末配当25円の年間50円となりました。この結果、当期の連結配当性向は45.0%となります。

次期の配当予想につきましては、年間での1株当たり普通配当を50円(うち、中間配当25円)とする予定です。

今後の見通し

創業50周年を迎え、日清食品グループは2008年10月1日をもって、持株会社制に移行します。これにより、多様性のある、それぞれのブランドを強化し、各事業会社の成長を促していきます。

また、食品メーカーとしての最重要責務である、安全・安心な製品を提供するため、食品安全研究所、日清(上海)食品安全研究開発有限公司において製品や原材料の安全性を更に厳しくチェックしていきます。

販売面では、安全・安心のロングセラーブランドである「チキンラーメン」「カップヌードル」「日清のどん兵衛」「日清焼そばU.F.O.」「明星チャルメラ」等の主力製品をベースに、多様化する消費者や流通業界のニーズを捉えた新製品を積極的に投入していきます。

海外市場については、日本で生まれ、世界食となったインスタントラーメンのバイオニア企業として、すべての国と地域の人々においしさと喜びを提供していく世界戦略を推し進めていきます。

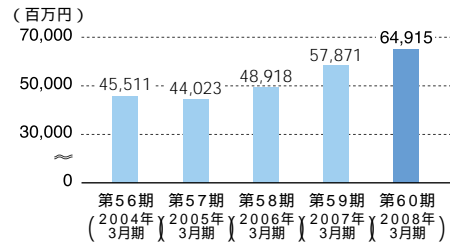
部門別営業の概況

即席袋めん類



「チキンラーメン」「日清のラーメン屋さん」「明星チャルメラ」

即席袋めん類の売上高推移



当期は、発売50周年を迎える「チキンラーメン」シリーズや、「明星チャルメラコレクション」シリーズが好調な売行きを示しましたが、「日清のラーメン屋さん」シリーズが減収となりました。即席袋めん類全体としては、国内市場では明星食品の売上が1年を通じて連結されたため、増収となりました。海外市場についても米国を中心に既存品が好調でした。

この結果、即席袋めん類の売上高は前期比12.2%増の649億15百万円となりました。

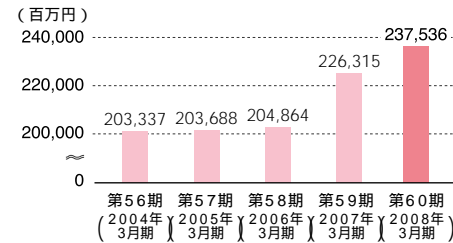


カップめん類



「カップヌードル」「日清のどん兵衛」「明星一平ちゃん夜店の焼そば」

カップめん類の売上高推移



消費者の喫食方法に関する嗜好を製品化した「ミルクシーフードヌードル」が大ヒットとなりましたが、「カップヌードル」シリーズ全体としては売上減となりました。カップ焼そばジャンルでは「明星一平ちゃん夜店の焼そば」シリーズが堅調な売上を示しました。「日清のどん兵衛」シリーズは和風めんジャンルが一般的に伸び悩んでいることを反映し、売上が減少しました。今年1月から実施した販売価格改定によりオープンブライス製品へのニーズが高まっており、「スープヌードル」を始めとするバリューカップが大幅に売上を伸ばしました。新カテゴリーの電子レンジ調理型製品の「日清Chin」シリーズ、「日清Spa王レンジタイプ」シリーズも、簡単調理で本格的な食感を求める消費者の支持を得ました。

海外市場では、北米の高価格帯製品「CHOW MEIN」「Souper Meal」が引き続き安定した売行きとなりました。

この結果、カップめん類の売上高は前期比5.0%増の2,375億36百万円となりました。

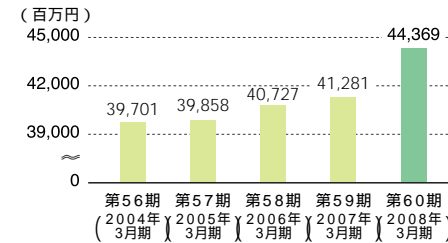
チルド・冷凍食品



「日清焼そば」

「冷凍日清Spa王」

チルド・冷凍食品の売上高推移



チルド食品では、商品価値や収益性を重視した販売を実施したため、主力製品の「日清焼そば」が若干の減収となりましたが、明星食品のチルド調理めんの売上が1年を通じて連結されたことにより同部門の増収に貢献しました。

冷凍食品では、高付加価値製品「冷凍日清Spa王プレミアディナー」シリーズ等が、簡単調理で本格的な食感を求めるユーザーの支持をいただき、堅調な売上となったものの、同部門としては減収となりました。

これらの結果、チルド・冷凍食品全体の売上高としては、前期比7.5%増の443億69百万円となりました。

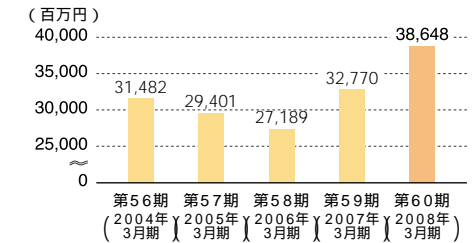
その他の事業



「ビルクル」「シスコーンBIG」

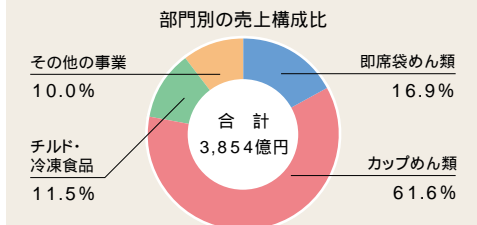
「外食事業(味の民芸)」

その他の事業の売上高推移



乳酸菌飲料「ビルクル」、シリアル食品「シスコーンBIG」が引き続き安定した販売を維持したこと、外食事業が当部門の売上に貢献したことにより、その他の事業の売上高は前期比17.9%増の386億48百万円となりました。

部門別の売上状況



連結決算の状況

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	第59期 (2007年3月31日現在)	第60期 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	159,540	157,633
固定資産	250,867	235,061
有形固定資産	93,633	93,802
無形固定資産	5,022	4,321
投資その他の資産	152,210	136,937
資産合計	410,407	392,694
負債の部		
流動負債	95,837	80,934
固定負債	26,093	22,916
負債合計	121,931	103,850
純資産の部		
株主資本	277,111	285,803
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	49,754	49,754
利益剰余金	216,553	225,269
自己株式	14,318	14,342
評価・換算差額等	4,639	3,337
その他有価証券評価差額金	10,921	3,589
土地再評価差額金	7,532	7,532
為替換算調整勘定	1,251	605
少数株主持分	6,724	6,377
純資産合計	288,476	288,844
負債純資産合計	410,407	392,694

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	25,122	49,754	216,553	14,318	277,111	10,921	7,532	1,251	4,639	6,724	288,476
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			4,890		4,890						4,890
当期純利益			13,591		13,591						13,591
自己株式の取得				25	25						25
自己株式の処分		0		1	2						2
その他利益剰余金増加高			15		15						15
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					-	7,331	-	645	7,977	347	8,324
連結会計年度中の変動額合計	-	0	8,716	24	8,692	7,331	-	645	7,977	347	367
2008年3月31日残高	25,122	49,754	225,269	14,342	285,803	3,589	7,532	605	3,337	6,377	288,844

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	第59期 (2006年4月1日から 2007年3月31日まで)	第60期 (2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
売上高	358,238	385,469
売上原価	175,296	195,664
売上総利益	182,941	189,805
販売費及び一般管理費	149,207	162,133
営業利益	33,734	27,671
営業外収益	4,598	5,850
営業外費用	490	723
経常利益	37,843	32,798
特別利益	785	204
特別損失	5,050	5,314
税金等調整前当期純利益	33,578	27,688
法人税、住民税及び事業税	11,018	11,026
法人税等調整額	3,528	3,251
少数株主利益	62	181
当期純利益	18,968	13,591

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	第59期 (2006年4月1日から 2007年3月31日まで)	第60期 (2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	26,974	25,875
投資活動による キャッシュ・フロー	4,770	16,600
財務活動による キャッシュ・フロー	7,421	6,827
現金及び現金同等物に 係る換算差額	91	367
現金及び現金同等物の 増減額	14,873	2,079
現金及び現金同等物の 期首残高	61,570	76,694
新規連結子会社増加に伴う 現金及び現金同等物の増加額	251	-
現金及び現金同等物の 期末残高	76,694	78,774

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)は前連結会計年度末より20億79百万円増加し、787億74百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ10億98百万円減少し、258億75百万円の収入となりました。資金の増加要因として退職給付引当金の増減額が増加したこと及び売上債権の減少等がありました。税金等調整前当期純利益の減少及び未払債務が減少したことが資金の減少要因となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ118億30百万円支出が増加し、166億円の支出となりました。この主な要因は資金の効率的な運用を図るため債券を購入したことにより投資有価証券等の取得による支出が増加したこと及び当社においては紙カップ対応設備の導入、明星食品においては工場新設等大規模な設備投資を行ったことにより固定資産取得による支出が増加したこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ5億94百万円支出が減少し、68億27百万円の支出となりました。この主な要因は配当金の支払額が減少したことによるものです。

高水準の売上高営業利益率

$$\text{売上高営業利益率}(\%) = \frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

売上高営業利益率とは、売上高に対する営業利益の割合をいい、本業における収益力の高さを示す指標です。

当社は、連結ベースで7.2%、単独ベースで11.6%と高い水準となっております。

単独決算の状況

貸借対照表

(単位:百万円)

	第59期 (2007年3月31日現在)	第60期 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	94,749	97,904
固定資産	241,341	224,738
有形固定資産	42,013	44,650
無形固定資産	106	102
投資その他の資産	199,221	179,984
資産合計	336,091	322,642
負債の部		
流動負債	58,856	51,134
固定負債	15,669	13,141
負債合計	74,526	64,276
純資産の部		
株主資本	258,275	261,365
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	49,708	49,708
利益剰余金	197,763	200,877
自己株式	14,318	14,342
評価・換算差額等	3,289	2,999
その他有価証券評価差額金	10,822	4,533
土地再評価差額金	7,532	7,532
純資産合計	261,565	258,366
負債純資産合計	336,091	322,642

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

	第59期 (2006年4月1日から 2007年3月31日まで)	第60期 (2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
売上高	236,938	228,216
売上原価	102,897	101,949
売上総利益	134,041	126,267
販売費及び一般管理費	102,615	99,788
営業利益	31,425	26,478
営業外収益	3,554	3,993
営業外費用	240	178
経常利益	34,739	30,293
特別利益	212	175
特別損失	2,013	9,433
税引前当期純利益	32,937	21,035
法人税、住民税及び事業税	9,440	9,818
法人税等調整額	5,159	3,212
当期純利益	18,337	8,004

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
2007年3月31日残高	25,122	49,708	197,763	14,318	258,275	10,822	7,532	3,289	261,565
事業年度中の変動額									
剰余金の配当			4,890		4,890				4,890
別途積立金の積立					-				-
当期純利益			8,004		8,004				8,004
自己株式の取得				25	25				25
自己株式の処分		0		1	2				2
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)					-	6,288	-	6,288	6,288
事業年度中の変動額合計	-	0	3,114	24	3,090	6,288	-	6,288	3,198
2008年3月31日残高	25,122	49,708	200,877	14,342	261,365	4,533	7,532	2,999	258,366

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

お知らせ

会社分割による持株会社制への移行に関して

当社グループは創業50周年を迎えるとともに、新たに第二創業期をスタートするにあたり、2008年10月1日をもって、持株会社制に移行することとなりました。

具体的には、まず当社の営む即席めん事業を「日清食品株式会社」に、チルド食品事業を「日清チルド食品株式会社」に、冷凍食品事業を「日清冷凍食品株式会社」に、総務・経理・給与計算・情報システム等の事務管理業務を「日清食品ビジネスサポート株式会社」に、それぞれ新設分割の方法により承継させます。そして、当社は持株会社となり、「日清食品ホールディングス株式会社」に商号変更し、引続き上場を維持します。

各事業がその競争力を更に活性化させ、グループ全体の企業価値を最大化できる経営体制を構築することで、当社グループの発展につなげていきます。

会社分割の目的

当社グループが今後の成長戦略を支える経営組織として持株会社制に移行する目的は以下のとおりです。

グループ戦略機能の強化

持株会社においては、機動的かつ全体最適となるグループ全体の戦略発動と経営管理機能を担い、グループ戦略機能を一層強化いたします。

個々の事業の成長

事業会社においては、各社ごとの事業活動に集中し、意思決定の迅速化を図り、事業環境へ機動的に対応することにより、その成長を加速いたします。

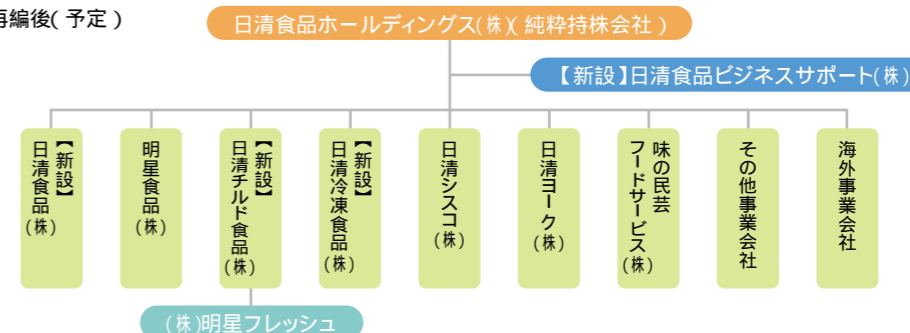
明星食品株式会社とのシナジー発揮の促進

即席めん事業における最適な協業と競争関係を「日清食品株式会社」(新設)と「明星食品株式会社」の間で形成し、また、生産・資材・研究開発・安全管理及び間接部門等の機能を各事業会社との間で共有し、シナジーの発揮を促進いたします。

経営者人材の育成

グループ全体から今後の成長戦略を支える経営者人材を育成し、事業会社の経営幹部として幅広く登用していきます。

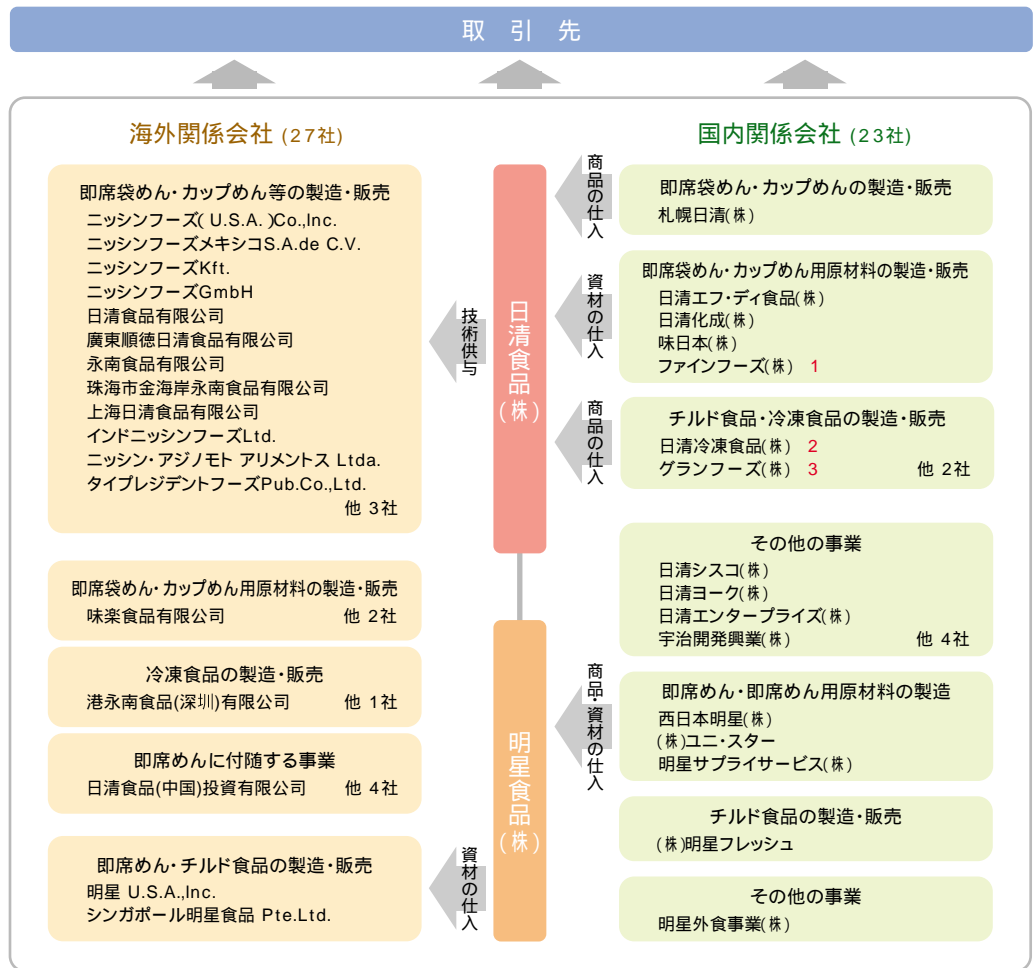
再編後(予定)



グループ企業の活動

当社グループは、即席袋めん・カップめんを主とするインスタント食品の製造・販売を中核としてその他食品事業、物流業等周辺事業へも展開を図っております。また、海外においても、現地子会社及び関連会社による即席袋めん・カップめん等の製造・販売やこれら現地法人に対する技術援助等により業域を拡大しております。

(2008年3月31日現在)



(注) 印は連結子会社、印は持分法適用会社であります。それ以外の会社は非連結関係会社であります。
 なお、2008年4月1日より 1 ファインフーズ(株)は香川日清食品(株)に、2008年5月1日より 2 日清冷凍食品(株)は四国日清食品(株)に、 3 グランフーズ(株)は高松日清食品(株)に商号変更しております。

会社データ・株式の概況

(2008年3月31日現在)

会社概要

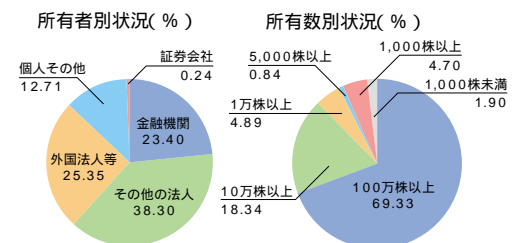
商号	日清食品株式会社 (Nissin Food Products Co.,Ltd.)
設立	1948年9月
資本金	25,122,718,774円
従業員数	1,392名
本社の所在地	大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
東京本社の所在地	東京都新宿区新宿六丁目28番1号
事業内容	即席袋めん、カップめんを主とする インスタント食品の製造及び販売、 その他食品事業等

主な事業所

北海道支店	札幌市北区北七条西一丁目1番地2
東北支店	仙台市青葉区一番町一丁目8番3号
中部支店	名古屋市千種区内山三丁目7番3号
中国支店	広島市南区西荒神町1番8号
四国支店	高松市観光通二丁目2番15号
九州支店	福岡市博多区博多駅東二丁目13番34号
関東工場	茨城県取手市清水667番地1
静岡工場	静岡県志太郡大井町相川17番2
滋賀工場	滋賀県栗東市下鉤140番地1
下関工場	山口県下関市小月小島一丁目1番12号
中央研究所	滋賀県草津市野路町2247番地
食品安全研究所	滋賀県草津市野路町2247番地
支店	工場
研究所	

株式の状況

発行可能株式総数	500,000,000 株
発行済株式総数	127,463,685 株
株主数	22,150 名
1単元の株式数	100 株
単元株主数	20,299 名



(単元未満株式を除く)

役員及び執行役員

代表取締役社長	安中 宏	基晋英之
代表取締役専務取締役	藤川 昭	隆泰
常務取締役	松尾 隆	久修
常務取締役	成村 善	博信
取締役	松原 野	順彦
取締役	笹原 林	三
取締役	柳田 隆	一
取締役	鉄三 善	作
取締役	永野 博	徹
取締役	小小 島	士
常勤監査役	寺田 雄	裕
監査役	堀之内 正	美
監査役	高野 敏	広
執行役員	西山 正	孝
執行役員	尾田 橋	史
執行役員	高橋 越	雅
執行役員	山高 東	樹
執行役員	横山 部	文
執行役員	山服 田	己
執行役員	宮友 友	司
執行役員	友政 田	樹
執行役員	友宏 本	充
執行役員	友井 中	隆
執行役員	坂本 井	
執行役員	坂中 藤	
執行役員	田安 徳	

大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数(百株)	出資比率(%)
スチール パートナース ジャパン	232,180	18.22
ストラテジック ファンド(オフショア)エルピー	79,043	6.20
財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団	78,000	6.12
三菱商事株式会社	78,000	6.12
伊藤忠商事株式会社	41,000	3.22
株式会社安藤インターナショナル	40,000	3.14
株式会社みずほコーポレート銀行	36,504	2.86
株式会社三菱東京UFJ銀行	24,604	1.93
小野薬品工業株式会社	23,610	1.85
江崎グリコ株式会社	21,630	1.70
ハウス食品株式会社		

(注) 当社は、自己株式52,028百株(4.08%)を保有しておりますが、上記の大株主の状況から除いております。

株主メモ

事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間

配当金受領株主確定日：期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数：100株

定時株主総会：6月中

基準日：3月31日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して
定めます。

公告の方法：電子公告の方法により行います。ただし、電子
公告によることができない事故その他のやむ
を得ない事由が生じたときは、日本経済新聞
に掲載する方法により行います。

公告掲載URL

<http://www.nissinfoods.co.jp/koukou/>

株主名簿管理人：東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：大阪市北区曽根崎二丁目11番16号
みずほ信託銀行株式会社
大阪支店証券代行部

同事務取次所：みずほ信託銀行株式会社
本店及び全国各支店
みずほインベストーズ証券株式会社
本店及び全国各支店

郵便物送付先：〒135-8722
及びお問合せ先 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-288-324(フリーダイヤル)

上場金融商品取引所：東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部

株主様ご優待

基準日	対象株主様	ご優待内容
3月31日 (6月贈呈) 及び 9月30日 (12月贈呈)	100株以上1,000株未満 ご所有の株主様	1,500円相当の当社及び 当社グループ会社の製品詰合せ
	1,000株以上 ご所有の株主様	3,500円相当の当社及び 当社グループ会社の製品詰合せ

お知らせ

(1)単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(100株未満)をご所有の株主
様は、その単元未満株式と併せて1単元の株式
数(100株)となる株式の買増請求、又は単元
未満株式の買取請求(当社に対する売却)をす
ることができます。

お手続きをご希望されます株主様は、左記の
株主名簿管理人にお問合せ先まで、ご連絡下さい。

(2)配当金振込制度ご希望の株主様へ

株主様ご所有の株式に対する配当金をご指定
の銀行預金口座又はゆうちょ銀行貯金口座へ直
接お振込みさせていただく制度がございます。

この制度で、振込口座をご指定いただきます
と、今後の配当金はご指定口座へお振込みいた
します。

お手続きをご希望されます株主様は、左記の
株主名簿管理人にお問合せ先まで、ご連絡下さい。

(3)株主様専用電子メールアドレスのご案内

当社は、株主様からのご意見を、お電話、お手
紙のほか電子メールを利用してお寄せいただ
くための専用電子メールアドレスを設けており
ます。

当社について日頃お気づきの事柄がございま
したら、次のメールアドレスまでご意見をお寄せ
下さい。

なお、お電話、お手紙でもお待ち申しあげてお
ります。

株主様専用電子メールアドレス

E-mail soumu@mb1.nissinfoods.co.jp

ご連絡先

〒532-8524

大阪市淀川区西中島四丁目1番1号

日清食品株式会社 総務部

株主様係

TEL (06) 6305-7711(代表)

FAX (06) 6304-1288

E-mail soumu@mb1.nissinfoods.co.jp

日清食品株式会社

本 社 〒532-8524 大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
TEL (06) 6305-7711(代表)

東 京 本 社 〒160-8524 東京都新宿区新宿六丁目28番1号
TEL (03) 3205-5111(代表)

ホームページ <http://www.nissinfoods.co.jp/>